

聖餐式

マタイの福音書 25 章 14-46 節

「さばきが来ることをわきまえ、与えられた時間を賢く用いる」

25:14 天の御国は、しもべたちを呼んで、自分の財産を預け、旅に出て行く人のようです。

25:15 彼は、おのおのその能力に応じて、ひとりには五タラント、ひとりには二タラント、もうひとりには一タラントを渡し、それから旅に出かけた。

25:16 五タラント預かった者は、すぐに行って、それで商売をして、さらに五タラントもうけた。

25:17 同様に、二タラント預かった者も、さらに二タラントもうけた。

25:18 ところが、一タラント預かった者は、出て行くと、地を掘って、その主人の金を隠した。

25:19 さて、よほどたってから、しもべたちの主人が帰って来て、彼らと清算をした。

25:20 すると、五タラント預かった者が来て、もう五タラント差し出して言った。『ご主人さま。私に五タラント預けてくださいましたが、ご覧ください。私はさらに五タラントもうけました。』

25:21 その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

25:22 二タラントの者も来て言った。『ご主人さま。私は二タラント預かりましたが、ご覧ください。さらに二タラントもうけました。』

25:23 その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

25:24 ところが、一タラント預かっていた者も来て、言った。『ご主人さま。あなたは、蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。』

25:25 私はこわくなり、出て行って、あなたの一タラントを地の中に隠しておきました。さあどうぞ、これがあなたの物です。』

25:26 ところが、主人は彼に答えて言った。『悪いなまけ者のしもべだ。私が蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めることを知っていたというのか。』

25:27 だったら、おまえはその私の金を、銀行に預けておくべきだった。そうすれば私は帰って来たときに、利息がついて返してもらえたのだ。』

25:28 だから、そのタラントを彼から取り上げて、それを十タラント持っている者にやりなさい。』

25:29 だれでも持っている者は、与えられて豊かになり、持たない者は、持っているものまでも取り上げられるのです。』

25:30 役に立たぬしもべは、外の暗やみに追い出しなさい。そこで泣いて歯ぎしりするのです。』

25:31 人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。』

25:32 そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分け、

25:33 羊を自分の右に、山羊を左に置きます。』

25:34 そうして、王は、その右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。』

25:35 あなたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渴いていたとき、わたしに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、

25:36 わたしが裸のとき、わたしに着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれたからです。』

25:37 すると、その正しい人たちは、答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹なのを見て、食べる物を差し上げ、渴いておられるのを見て、飲ませてあげましたか。』

25:38 いつ、あなたが旅をしておられるときに、泊まらせてあげ、裸なのを見て、着る物を差し上げましたか。』

25:39 また、いつ、私たちは、あなたのご病気やあなたが牢におられるのを見て、おたずねしましたか。』

25:40 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』

25:41 それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火に入れ。』

25:42 おまえたちは、わたしが空腹であったとき、食べる物をくれず、渴いていたときにも飲ませず、

25:43 わたしが旅人であったときにも泊まらせず、裸であったときにも着る物をくれず、病気のときや牢にいたときにもたずねてくれなかった。』

25:44 そのとき、彼らも答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹であり、渇き、旅をし、裸であり、病気をし、牢におられるのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』

25:45 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、おまえたちに告げます。おまえたちが、この最も小さい者たちのひとりにしなかったのは、わたしにしなかったのです。』

25:46 こうして、この人たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入ります。」

はじめに

マタイの福音書の五大説教の学びも最後となりました。

この五大説教は、イエスが地上で歩まれたときに教えられたおもな教えですから、非常に重要です。

先月は、賢い娘たちと愚かな娘たちのたとえから学び、イエスの再臨に備える必要性を教わりました。

イエスの再臨に備える唯一の方法は、永遠の救いを与えてくださるのがイエスだと信じることです。

イエスによる救いの道は、まず、自らの罪の性質を認めることから始まります。自分の罪が創造主なる聖書の神から自分を引き離したことを知るのです。

イエスが私たちの身代わりに罪の罰を受けられたことを信じなければ、罪のさばきは必ずやってきます。

しかし、自分の罪を認めるだけでは十分ではありません。罪を悔い改め、イエスが必要であると告白する必要があります。これは簡単ではありませんが、法律を守って生活している人にはとくに難しいでしょう。けれども、シモン・ペテロのように、イエスが人の姿をした神であることを知ると、悔い改め以外の選択肢はありません。

ルカ 5 : 8

5:8 これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから」と言った。

今日の聖書箇所は、ふたつの部分にはっきりと分かれています。

前半はイエスの再臨を待ち望みながら、賢く積極的に生きることの必要性を描きます。

後半は、イエスの再臨後に何が起こるかを教えています。おもに人間のさばきについてです。

イエスは、羊と山羊を分けられます。

マタイ 25 : 31-34

25:31 人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。

25:32 そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分け、

25:33 羊を自分の右に、山羊を左に置きます。

25:34 そうして、王は、その右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。』

まずタラントのたとえから学び、その後、イエスの再臨されるときのさばきについて学びましょう。

タラントのたとえ：マタイ 25：14-30

機会がある間にその機会を利用するようにと、聖書は繰り返し促します。

箴言 10：5

10:5 夏のうちに集める者は思慮深い子であり、刈り入れ時に眠る者は恥知らずの子である。

イザヤ書 55：6

55:6 【主】を求めよ。お会いできる間に。近くにおられるうちに、呼び求めよ。

ヨハネ 12：35-36

12:35 イエスは彼らに言われた。「まだしばらくの間、光はあなたがたの間にあります。やみがああなたがたを襲うことのないように、あなたがたは、光がある間に歩きなさい。やみの中を歩く者は、自分がどこに行くのかわかりません。

12:36 あなたがたに光がある間に、光の子どもとなるために、光を信じなさい。」イエスは、これらのことをお話しになると、立ち去って、彼らから身を隠された。

タラントのたとえは、機会を無駄にする不幸についての教えです。

タラントのたとえはどの時代の人にも通用する教えですが、この時イエスは、ご自身の再臨の直前に生きている人々について語られました。（マタイ 24：34）

イエスがいつ再臨されるかは前もってわかりませんが、再臨が迫っていることは、見逃しようのない驚くべきしるしによって明らかになります。（マタイ 24：3-29）

タラントのたとえは、信仰の機会の4つの側面を描きます。

1. 私たちに与えられた責任
2. 私たちの反応
3. 私たちが直面するさばき
4. 私たちが受ける報い

このたとえを学び始める前に、理解しておくべき重要な事柄があります。

それは、14節の「天の御国」という単語です。

新約聖書では、「天の御国」「御国」という表現が頻繁に用いられます。

これは、ふたつの意味で使われています。

贖われたすべての人たちが構成する目に見えないからだを指す場合があります。マタイ 18：3でイエスが語られた際の「天の御国」はその意味で使われています。

マタイ 18：3

18:3 言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、入れません。

これは、本当の意味での御国を指します。

一方、イエスを信じてイエスに仕えていると公言する人々の構成する目に見える外見上のからだを指す場合もあります。

イエスは、外面の見かけには、本物と偽物があると明確に示しておられます。本物のクリスチャンと偽物のクリスチャンがいるということです。

ここで教えられたたとえ（賢い娘と愚かな娘のたとえとタラントのたとえ）ではどちらも、人々が表面上何と言っているかに基づいてイエスは語られます。どちらのたとえも、クリスチャンと言っているても本物と偽物がいることを示します。

自称クリスチャンなのか、本物のクリスチャンなのかは、なかなか見分けが付きません。しかしイエスは、「あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。」とおっしゃいました。（マタイ 7：20）

「罪について認めさせる」（ヨハネ 16：8）のは聖霊の働きですから、悔い改めずに罪を犯し続け、罪深いふるまいをする人は、神の子でない可能性が高いでしょう。

ヨハネ第一 1：8-9

1:8 もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。

1:9 もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

1. 私たちの責任（14-15 節）

14-15 節には、遠くに旅立つ裕福な人が登場します。彼はしもべたちを呼んで、それぞれの能力に応じてタラントを与えました。タラントとは通常お金を指します。ここで重要なのは、与えられた金額ではなく、土地を所有していた裕福な主人のためにお金を使う責任です。

この場合、土地の所有者である裕福な人はイエスを象徴しています。

裕福な人のしもべは、イエスに従う人々を象徴します。イエスを自らの救い主と信じ、イエスを愛すると公言するすべての人は、イエスご自身から何らかの責任を与えられています。

お金は、イエスを信じる人々に与えられたあらゆる備えの象徴です。これは文字通り金銭である場合もあれば、時間、賜物や才能を指す場合もあります。

自分はクリスチャンであると言うなら、イエスからいただいたものを用いてイエスに仕える責任を免れません。

2. 私たちの反応（16-18 節）

16-18 節には、主人からいただいたお金に対するそれぞれのしもべの反応が記されています。

5 タラント受け取ったしもべは主人に仕えることにとっても意欲的で、すぐに出かけてお金を商売に賢く使い、倍額に増やしました。

この個所で使われた商売という単語は、一定期間継続して商売をすることを指します。

このしもべは、一度の売買をしてそのあとさぼっていたのではありません。一定期間続けて商売をしたのです。

ここで大切なのは、受け取った金額をしっかりと活かしたということです。

2 タラント受け取ったしもべも同様でした。

しかし、1 タラント受け取ったしもべは、地面に穴を掘って、受け取ったお金をそこに埋めました。

古代では、地面に穴を掘ってお金を隠すのは一般的な習慣でした。当時は銀行も金庫もなかったからです。

ここで問題なのは、地面に穴を掘ってお金を隠すのは、商売をして儲けるのに適した方法ではないことです。

他のしもべたちよりは受け取った額は少なかったとはいえ、それを最大限に活かして賢く使うという責任は同じでした。

後ほど、このしもべが主人を誤解していたことがわかります。イエスというお方を誤解していると、イエスに対する仕え方も間違ってしまう。イエスがどういうお方であるかを知り、このお方との関係をはぐくめば、それが主に仕える動機となるでしょう。

3. 私たちが直面するさばき（19-27 節）

主人が留守にしていた期間は明確にはわかりませんが、長期間でした。

主人は戻ると一番に 5 タラントを渡したしもべを呼びます。すると、もう 5 タラント儲けたと言います。主人は、しもべの働きを褒めて、さらなる責務を与え、「主人の喜びをともに喜んでくれ。」と言いました。

2 タラント渡されたしもべも同様でした。彼も褒められて、さらなる責務を与えられました。

しかし、1 タラントを渡されたしもべは、主人から厳しい判断をくだされます。

マタイ 25 : 24-27

25:24 ところが、一タラント預かっていた者も来て、言った。『ご主人さま。あなたは、蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。

25:25 私はこわくなり、出て行って、あなたの一タラントを地の中に隠しておきました。さあどうぞ、これがあなたの物です。』

25:26 ところが、主人は彼に答えて言った。『悪いなまけ者のしもべだ。私が蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めることを知っていたというのか。

25:27 だったら、おまえはその私の金を、銀行に預けておくべきだった。そうすれば私は帰って来たときに、利息がついて返してもらえたのだ。

このしもべは主人のしもべだと言っておきながら、主人に仕える努力をしませんでした。それで、悪い怠け者だと言われました。

このしもべは主人の性質を非難し、ひどい方だと責めました。さらに、蒔かないところから刈り取り、散らさないところから集めると言いました。

この悪い怠け者のしもべは、福音を聞く恵みに与りながらそのメッセージに応答したことの無い自称クリスチャンの象徴です。このしもべは、教会の礼拝に来ていて、イエスを知るチャンスを得ながら知ろうとしなかった人たちの象徴です。その人たちは、イエスの再臨のときに衝撃を受けることになるでしょう。

最後のさばきの時には、イエスに従って仕えたと言う人の中でも最終的にイエスに拒絶される人がいるのです。

マタイ 7 : 21-23

7:21 わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。

7:22 その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行ったではありませんか。』

7:23 しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』

本物の信仰を持ち、イエスと本当につながっている人は誰か、私たちにはわからなくても神は知っておられます。

4. 私たちが得る報い (28-30 節)

28-30 節には、1 タラントを預かって地中に埋めた人は、その 1 タラントを失ったとあります。その 1 タラントは、10 タラント持っていたしもべに渡されました。

30 節から、3 人目のしもべが偽信徒の象徴であることは明らかです。教会に来て、メッセージを聞いたけれど、応答しなかった人です。彼らの生き方は、神の聖霊によってまったく変えられませんでした。表面上はクリスチャンのように見えて、パリサイ人のように神のみことばをよく知っていても、イエスと一対一のつながりがないのです。

本物の信徒であれば、いつの日か私たちは天で報いをいただきます。神がみことばで約束してくださったすべてをいただき、豊かに祝われます。

まだ間に合います。今日、悔い改めてイエスを信じませんか。

人々のさばき : マタイ 25 : 31-46

五大説教の終盤で、イエスのご自身が人をさばかれることを明かしておられます。(32 節) 国々の民と言うことで、イエスはすべての人間が含まれていることを示されます。

神のさばきを免れる人はひとりもいません。

神はすべての罪をご存知で、すべての罪は神によってさばかれなければならない、と聖書は明言します。（民数記 32 : 23、ローマ 5 : 12、6 : 23、イザヤ書 3 : 11）

ローマ 1 : 18-23

1:18 というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。

1:19 それゆえ、神について知られることは、彼らに明らかです。それは神が明らかにされたのです。

1:20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。

1:21 それゆえ、彼らは神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなりました。

1:22 彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、

1:23 不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたちに似た物と代えてしまいました。

素晴らしいことに、私たちは罪を神の御子イエス・キリストに負っていただくことができます。

主は、私たちの罪にふさわしい罰を負ってくださるのです。

ですから、すでに本物のクリスチャンである人は、イエス・キリストがすべての罪を赦してくださったことを心から感謝しつつ、聖餐式を祝うことができます。

主は、ご自身にある新しいいのちを私たちに与えてくださいました。